

常なる磐

つねなる いわ

令和2年7月22日(水)号

◇ 前向きさを生み出すもの と その支え

21日の月曜日は、地から湧き上がってくる熱気が夕方まで続き、真夏の到来を感じさせる天候であった。本来であれば、この21日で1学期を締めくくり、暑さを感じながら、さあ夏休みというところであるが、今年はそうもいかない。

致し方がないとはいえ、子供、教職員とも、さぞテンションが下がっているだろうと心配したが、担任は授業履修等のさまざまな学級案件に思料し、そんなことを考えている暇はないと言う。いや、そうではない。

実際にはどうかというと、口をぎゅっと固く結び、敢えて気持ちを高める努力をしている。己を奮い立たせる言動や行動を取らせる根源は、目の前にいる子供たちの存在であるのは間違いない。

6月1日の学校再開前に心配していたとおり、学校では、最も子供と接する場面の多い担任の先生たちに大きな負担がのしかかっているのが現状である。

しかし、本校の担任は、忙しさを表に出さない。特に子供の前では、絶対に忙しさによる苛立った感情を表に出さない。本当の強さを備えている。プロである。

さて、子どもたちはどうかというと、やっとエンジンがかかってきたという感じである。担任の先生との信頼関係も深まり、通常ならば6月頭の状態。アポロなら、一段目のロケットを切り離し、二段目のロケットに再点火して月に向かって、いざ大気圏突入。勢いがついた状態で、学びや諸活動に深まりが出てきた。

学習については、教員間の連携と工夫した手だてにより、どの学年も年度内には全ての学習内容が履修できるように進められている。順調というよりも、修正計画どおりと言った方が正しいだろう。各担任が1年間の学習計画を見直して自分なりに年間指導計画を再計画し、授業を進めている。

あたりまえと言われればそうかもしれないが、教師たちも体験していない未知の作業であるから、大変さは極まりない。さらに、中学校の教師であれば担当する専門教科のみであるが、小学校は全教科である。やることは山ほどある。

加えて、2年生から6年生は、前年度の未履修部分の履修対応もしてきた。

それでも、教職を生業に選んだからには、やり抜くしかないし、やり切るしかない。これまでも、保護者や地域の方の理解が、強力な後押しとなってきた。

様々な面でご不便をかけている保護者の皆様のご理解を、改めてお願いしたい。